

公開実用 昭和61-69072

AB

⑩日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑬公開実用新案公報 (U)

昭61-69072

⑤Int.Cl.
B 65 D 81/20

識別記号

府内整理番号
C-2119-3E

④公開 昭和61年(1986)5月12日

審査請求 有 (全頁)

⑤考案の名称 防湿用容器

⑥実 願 昭59-152234

⑦出 願 昭59(1984)10月11日

⑧考案者 古田 重一 川崎市麻生区王禅寺2418-37

⑨代理人 古田 重一 川崎市麻生区王禅寺2418-37

⑩代理弁理士 原田 信市

明細書

1 考案の名称

防湿用容器

2 実用新案登録請求の範囲

1. 上側に開口を形成した有底筒形の本体の周囲に伸縮自在で、かつ収縮勢力を有するベローズ部を形成し、上記開口を密封した蓋あるいは上記本体の所要部分にガス注入バルブ及び安全バルブを設けてなることを特徴とする防湿用容器。

3 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、一般家庭あるいは工場、店舗等において粉ミルク、茶、海苔等の乾燥した食品あるいは湿気で劣化しやすい薬品、化学品等を収納する防湿用容器に関する。

(従来の技術)

従来、前記食品、薬品、化学品等を容器に収納するときには、乾燥剤を一緒に入れて湿気を防いでいる。

(考案が解決しようとする問題点)

しかし、実際上は容器の開口を蓋で完全に密封

公開実用 昭和61-69072

するのが極めて難しく、僅かずつ湿気が混入してしまふとともに、乾燥剤の吸湿効果が低く、持続期間が比較的短いために長期保存の場合には適宜乾燥剤を新しいものと取り替えなければならず、しかも乾燥剤の効力の有無を開蓋したまま判別できないため取り扱いが煩雑であるばかりか、満足な防湿効果が得られないという問題点があった。

本考案は、上記従来の問題点を解消し、取り扱いが容易で、防湿効果の高い防湿用容器を提供しようとするものである。

〔問題点を解決するための手段〕

本考案は、容器の本体の周囲に伸縮自在で、かつ収縮勢力を有するベローズ部を設け、蓋あるいは本体にはガス注入バルブ及び安全バルブを設けて、所望の食品等を収容した本体の開口をこの蓋で密封するとともに、ガス注入バルブから例えば圧縮した窒素ガスを充填してベローズ部を収縮勢力に抗し伸長させた状態に保持させておくことができるようにしてある。

〔作用〕

本考案においては、上記の如く窒素ガスの圧力によってベローズ部が伸長することにより本体の

容量が増加し、その分窒素の充填量が増加するとともに、窒素ガスが漏洩して内圧が低下するのに伴ってベローズ部がそれ自体の収縮勢力により自動的に収縮する。

(実施例)

以下には図示の実施例について説明する。

1は金属あるいは合成樹脂で形成した有底円筒形の本体で、水平な肩部2の中央上側に、周囲にねじを設けた開口部3を形成し、肩部2のすぐ下方の周囲にベローズ部4を形成している。

ベローズ部4は伸縮自在で、かつ収縮勢力を有し、通常においては収縮した状態(図面1点鎮線)を保持している。

なお、ベローズ部を合成樹脂で形成した場合に、合成樹脂の種類により充分な収縮勢力が得られないときには、このベローズ部に、金属製のばね、例えばコイルばねをインサート成型によって埋設し、あるいは内外周のいずれかに嵌着することにより収縮勢力を補充させるようにしてもよい。

5は開口部3に螺着した合成樹脂製の蓋で、上面に形成した凹部にガス注入バルブ6と安全バルブ7を取り付けている。

公開実用 昭和61-169072

ガス注入バルブ6は、通常弁体8が弁口を開成した状態を保持するようにはね9で付勢され、弁体8が外側から押圧されることによりばね9の付勢に抗して弁口を開成するようになっている。

安全バルブ7は、通常弁体10が弁口を開成した状態を保持するようにはね11で付勢され、弁体10が内側から押圧されることによりばね11の付勢に抗して弁口を開成するようになっている。

粉ミルク等の乾燥した食品あるいは薬品等を収納するには、それを本体1内に入れ、開口部3に蓋5を螺着して密封した後、窒素ガスを充填（圧力7kg/cm²）した小型スプレー式のポンベ（図示していない）でガス注入バルブ6より窒素ガスを注入する。

この窒素ガスの注入により本体1の内圧が高くなることによってベローズ部4が伸長し（図面実線）、本体1の容量が約1/2～1/3増加し、その分窒素ガスが充填される。この場合、本体1は上記ポンベの充填圧力に応じて、少なくとも1kg/cm²以上の所定の内圧に耐え得るように形成しておくとともに、本体1の内圧がこの所定圧力以上にならないように、前記安全バルブ7の作動圧

力を設定しておく。

また、本体1に窒素ガスを充填する際には、本体1内の空気が安全バルブ7から殆ど排気されるように窒素ガスを充分に充填することが望ましい。

このように、本体1内に窒素ガスを充填してい
~~る前に食品等を入れたり~~
るので、収納された食品等が湿気たり、酸化され
たりすることがない。

また、上記のように食品等を収納して保存している間に、窒素ガスが開口部3の部分から漏洩して内圧が低下するのに伴ってベローズ部4が収縮するので、それを一見するだけで窒素ガスの漏れ具合を簡単に知ることができ、ある程度漏れていったときには蓋5を蝶着したままガス注入バルブ6から窒素ガスを補充すればよいものである。

そして、保存中に食品等の一部を取り出したときには、閉蓋後に、前記最初のときと同じ要領で窒素ガスを充填すればよいものである。

なお、上記実施例では、ベローズ部を本体の上側部分に形成した場合について説明したが、これに限らず、ベローズ部を本体の中央あるいは下側部分に形成してもよい。

また、ガス注入バルブと安全バルブを蓋に設け

公開実用 昭和61-169072

た場合について説明したが、これに限らず、ガス注入バルブと安全バルブの両方あるいは一方を本体の肩部等適宜のところに取り付けるようにしてもよいとともに、窒素ガスに限らず、食品等の収納物を劣化させることがなく、かつ水分を含まないガス、例えば炭酸ガス、ヘリウム等を充填するようにしてもよい。

(考案の効果)

以上述べたところから明らかなように本考案によれば、収納した食品等を劣化させず、かつ水分を含まない例えば窒素ガスを充填することにより本体の内圧が高くなつてベローズ部が伸長し、その分本体の容量が増加して窒素ガスの充填量が増加するので、食品が湿気たり酸化するのを防止できる。

また、充填した窒素ガスが開口部から漏洩して本体の内圧が低下した場合には、ベローズ部がその収縮勢力により自動的に収縮するので、それを一見するだけで窒素ガスの漏れ具合を簡単に知ることができ、しかも閉蓋したままガス注入バルブから窒素ガスを補充することができる等取り扱いが容易なものである。

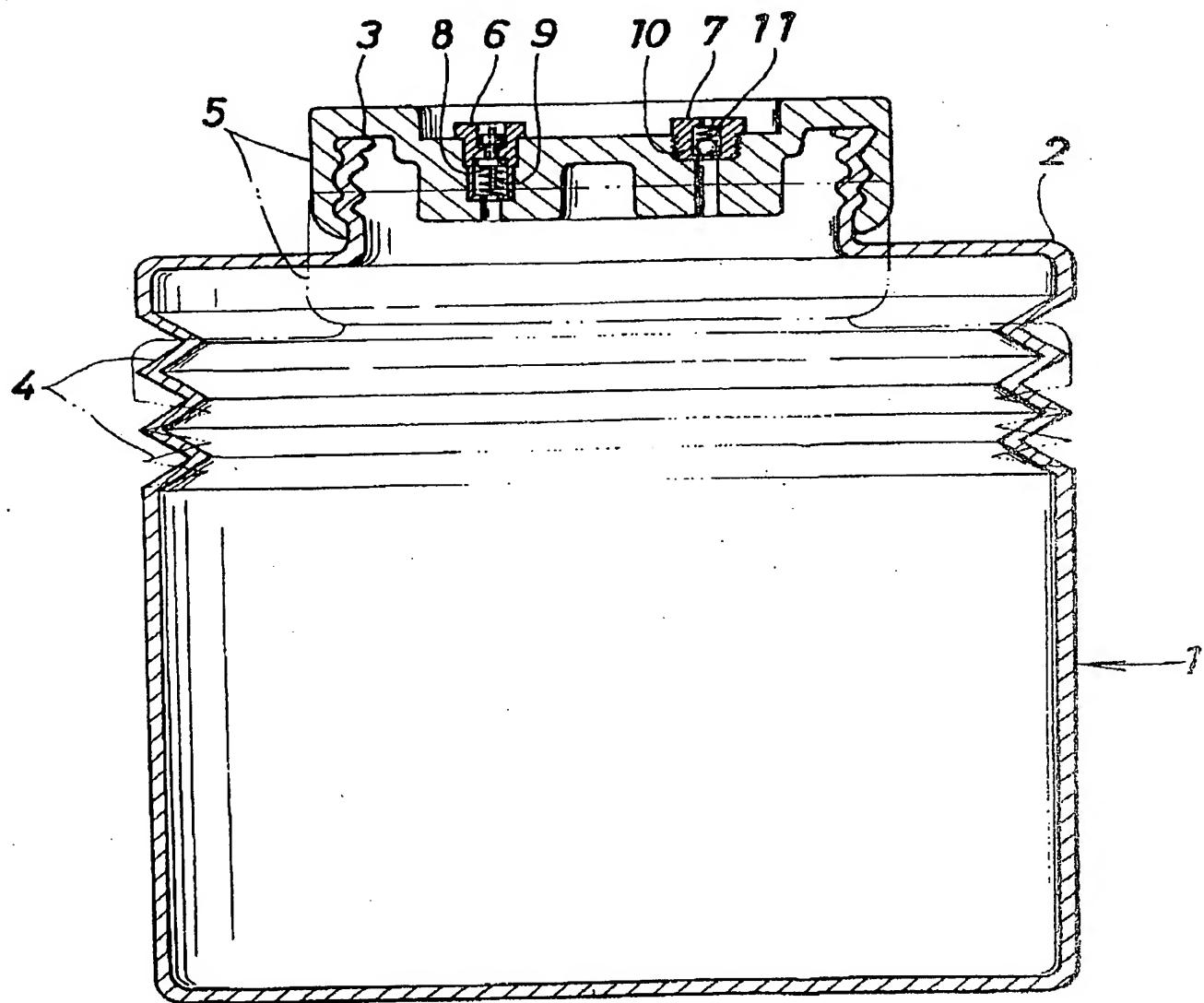
4 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示した縦断面図である。

3 ……開口部、1 ……本体、4 ……ベローズ部、
5 ……蓋、6 ……ガス注入バルブ、7 ……安全バ
ルブ。

実用新案登録出願人 古田重一
代 理 人 弁理士 原田信市

公開実用 昭和61-69072



代理人弁理士 原田信

案出日 69072

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

BLACK BORDERS

IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

FADED TEXT OR DRAWING

BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

SKEWED/SLANTED IMAGES

COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

GRAY SCALE DOCUMENTS

LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.